

袖の丸みの始末に関する研究

岩 切 岑

目 次

1. 緒 言
2. 実験材料及方法
3. 実験及び実験結果
4. 結 論

1. 緒 言

和服工作の実習は一般に時間を多く費すものであつて、各部分の技術を上達させるためには相当の日時を要するものである。そこで私は実習に要する時間を少しでも切りつめて短い時間でしかも完成した技術は時間を充分かけて、念入りにした成績と劣らない様な簡易な方法はないものであらうかと考えさせられるのである。和服工作に於ける部分縫も種々あるが、この度は袖の丸みの始末について研究してみた。丸みの大きさにも色々あるが其中で男女両用等に最も多く用いられるところの、2cm, 3cm, 4cmの三種の丸みについて研究した。

2. 実験材料及び方法

実験材料は、(白の天竺木綿、巾14cm、長さ50cm、織密度は、経糸26本/cm、緯糸28本/cm、厚さ0.14mm、)縫糸は木綿の赤糸を使用した。

方 法

袖の丸みの始末の方法は、従来第1図に示す様に丸みの本縫をした0.4cm外側を本縫程度の針目で縫いぢゑめ、更に其外側0.4cmはなして一回目の針山を抄つて縫いぢゑめ、更にもう一回同じ様に0.4cmはなして針山を抄つて引きしめるのであるが、其引きしめる糸の度合によつてキセが全体に平切にかかるか否かであつて、相当初心者には時間を要し、熟練した者でも平均3分17秒を要するのである。

これを次に示す様な方法ですれば平均1分25秒

を要し、従来の袖の丸みの始末に要した時間の約 $\frac{1}{2}$ 時間で出来上つている。その方法は従来の様な丸みにそつて縫いぢぢめるのではなく、本縫は、従来通り標通りに丸く縫い、丸みの中心と、弧の中心とを線にて結び其延長線上に丸みの弧より丸みの方法によつて異なるが、Xcm離して其線上に直角な線を引き、其線の上をXcm縫い更にXcmはなしてもう一本の線を引き其上の線も下の線と同じ長さ引きしめてかへり仕上りとなすもので直線を6針か7針で引きしめる事は、初心者にも縫い易く、時間も短く、しかも方法によつては出来上りが確實によい様である。第2図から第11図までは2cmの丸みで、第12図より第18図までは3cmの丸み、第19図より第24図までは4cmの丸みで、2cm丸みが10種類、3cmが7種類、4cm丸みが6種類実験をなした。

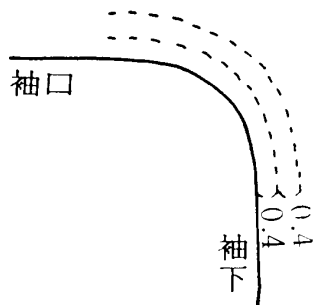
2図は丸みの中心と弧の中心との線上で丸みより0.3cm離れた直角な線の上に左右同じく2cm取り、更に0.1cm直角な線より離して平行にもう一本描き同じく左右に2cmづゝとつて2本糸で六針位縫いぢぢめて全部のしわを引きしめるのである

3図は、2図と同じく弧の中心より0.3cm離すところまでは同じく、第一の直角の線を第二の線の巨離も2図と同じく0.1cmで左右の縫いぢぢめる寸法を1.3cmとなした。

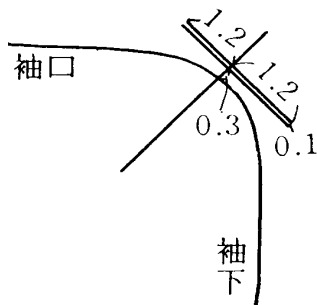
4図は、弧の中心より0.4cmはなして直角な線を引き、次の線の巨離が0.2cmとして左右の縫いぢぢめる寸法は3図と同じく1.3cmとなす。

5図は、弧の中心より0.4cmはなして、直角な線を引き第二の直線との間は0.2cmはなし左右の

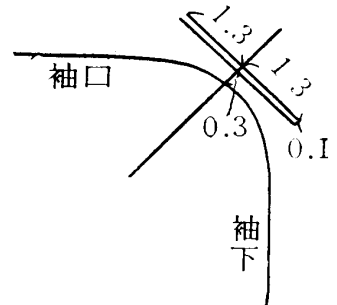
第1図 従来の始末



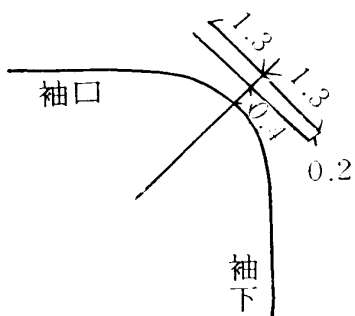
第2図 2 cm 丸



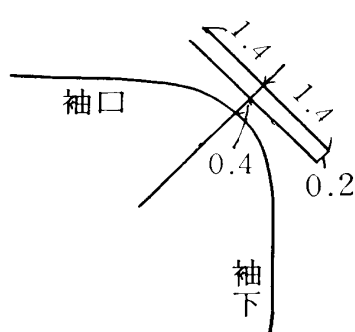
第3図 2 cm 丸



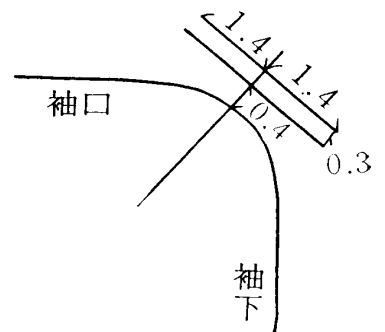
第4図 2 cm 丸



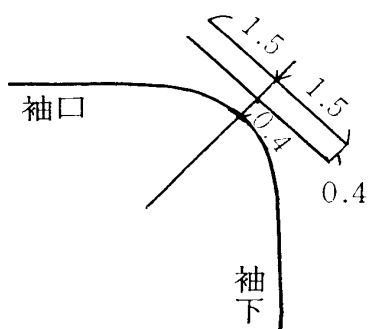
第5図 2 cm 丸



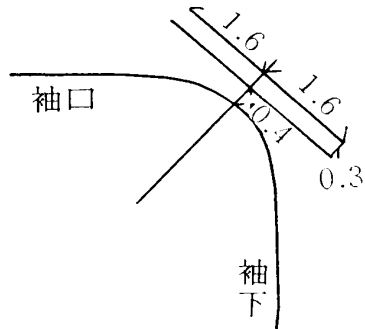
第6図 2 cm 丸



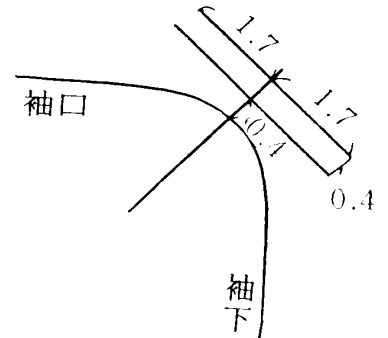
第7図 2 cm 丸



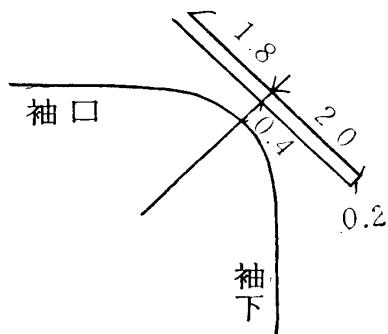
第8図 2 cm 丸



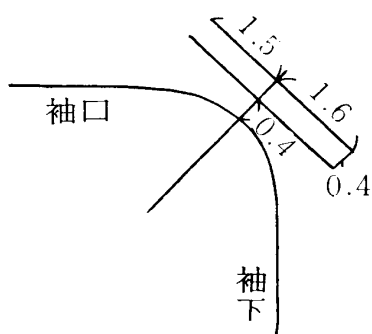
第9図 2 cm 丸



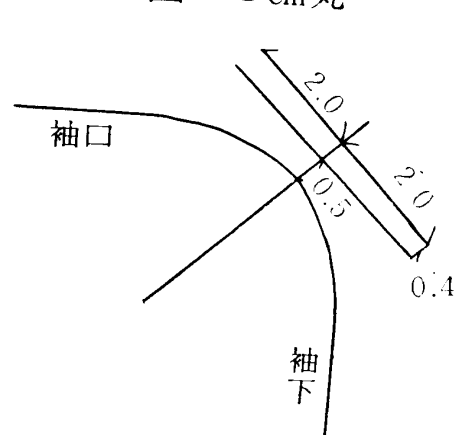
第10図 2 cm 丸



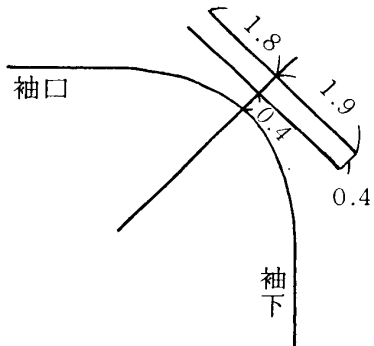
第11図 2 cm 丸



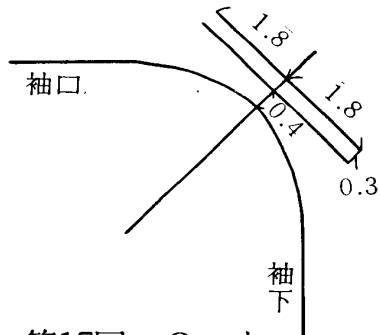
第12図 3 cm 丸



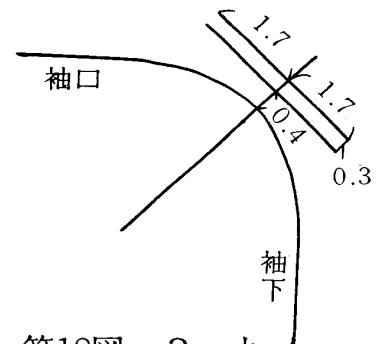
第13図 3 cm 丸



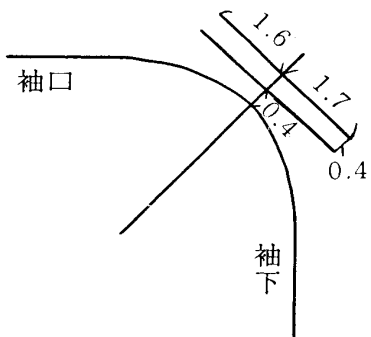
第14図 3 cm 丸



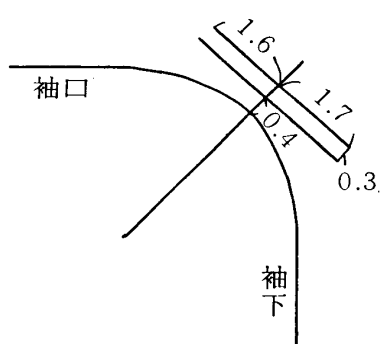
第15図 3 cm 丸



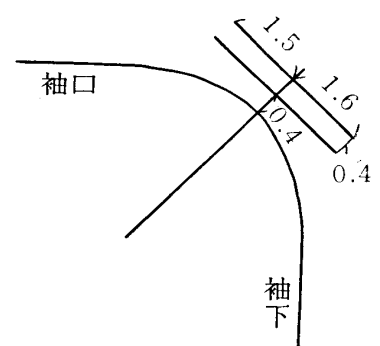
第16図 3 cm 丸



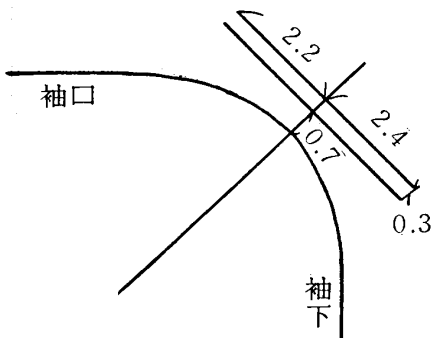
第17図 3 cm 丸



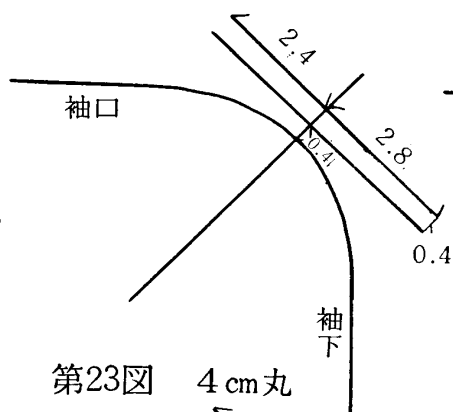
第18図 3 cm 丸



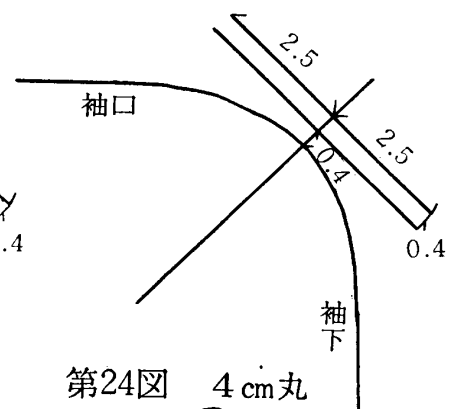
第19図 4 cm 丸



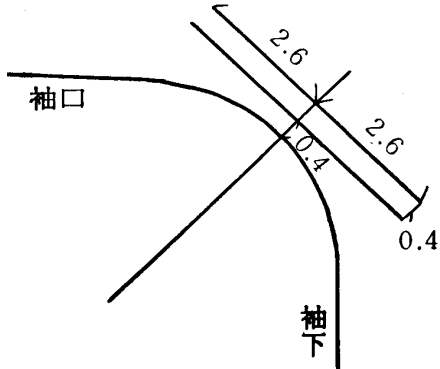
第20図 4 cm 丸



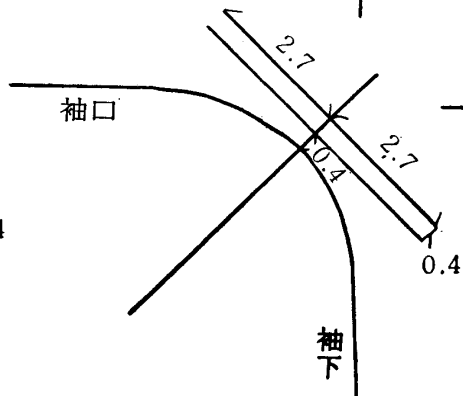
第21図 4 cm 丸



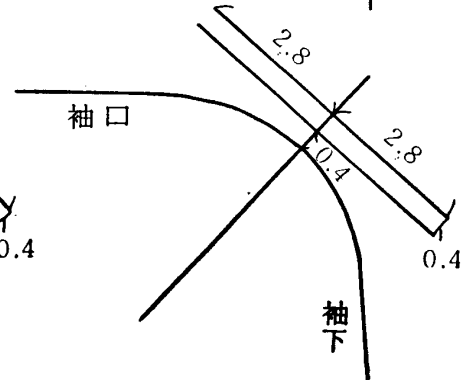
第22図 4 cm 丸



第23図 4 cm 丸



第24図 4 cm 丸



縫いしめる寸法は1.4cmとする。

6図は、5図と同じく弧の中心より0.4cmはなし、直角な線を描き第二の直角な線を0.3cmはなしして描き左右の寸法は第5図と同じく1.4cmである。

7図は、弧の中心より0.4cmはなしして直線を直角に描き第二の直線との巨離が0.4cmで左右の縫いしぼりの寸法は1.5cmずつである。

8図は、弧の中心から、0.4cmはなし第一の直線を描きそれより0.3cmはなしして第二の直線を描き、左右に1.6cmづつ縫いしぼるのである。

9図は、弧の中心から0.4cmはなし第一の線を描き0.4cmの巨離で第二の線を描き、左右の寸法は1.7cmずつ縫いしぼるのである。針数は寸法が多くなれば自然と7針8針と増加させて始末する

10図は、弧の中心から0.4cmはなしして直角な線を描き次の線との巨離は0.2cmとし袖口の方が1.8cm袖下の方を2.0cmとして縫いしぼるのである。

11図は、弧の中心から0.4cmはなしして直角な線を描き更に0.4cmはなしして第二の直線を描き、袖口の方へ1.5cm袖下の方へ1.6cm縫いしぼるのである。

12図は、3cmの丸みで、弧の中心から0.5cm離して直角な線を描き第二の線は0.4cmはなしして描き左右え2.0cmずつ縫いしぼるのである。

13図は、弧の中心から0.4cmはなし2本の直線の巨離は0.4cmとし袖口の方へ1.8cm、袖下の方へ1.9cm、縫いしぼるのである。

14図は、弧の中心から0.4cmはなしして直角な線を描き、第二の線との巨離は0.3cmとして左右に1.8cmずつ縫いしぼるのである。

15図は、14図と同じく直線を描き左右に1.7cmずつ縫いしぼるのである。

16図は、弧の中心から0.4cmはなしして直線を描き第二の直線との巨離は0.4cmはなしして描き袖口の方へ1.6cm袖下の方へ1.7cm縫いしぼるのである

17図は、弧の中心から0.4cmはなしして直線を描き第二の直線も0.3cmはなししてとり袖口の方へ1.6cm袖下の方へ1.7cm縫いしぼるのである。

18図は、弧の中心から0.4cmはなしして直線を描き更に0.4cmはなしして第二直線を描き、袖口下の方へ1.5cm、袖下縫代の方へ1.6cm縫いしぼるの

である。

19図は、4cm丸みの図で弧の中心で0.7cmはなしして直線を描き、更に0.3cmはなしして第二の直線を描き袖口の方へ2.2cm袖下の方へ2.4cmを引きしぼるのである。

20図も4cm丸みのもので弧の中心から0.4cmはなしして直線を描き、更に0.4cmはなしして第二の直線を描き、袖口の方へ2.4cm、袖下縫代の方へ2.8cmを縫いしぼるのである。

21図は、20図で袖口下の方へ2.4cmとつたところが2.5cmとり、袖下の方へも同じく2.5cmとつて縫いしめるものである。

22図は、21図同様に袖口の方へ2.6cm、袖下の方にも2.6cm縫いしぼるものである。

23図は、22図と同じにとり袖口の方へ2.7cm、袖下の方へ2.7cm縫いしめるものである。

24図は、前同様弧から0.4cmはなしして第一線を描き、更に0.4cmはなしして第二線を描くのは前図同様であるが袖口の方へ2.8cm、袖下の方へも同じく2.8cm縫いしぼるのである。

3. 実験及び実験結果

1図は、従来の袖の丸みの始末のしかたで袖口の方の縫代は0.8cm、袖下の縫代は2cmである。之に縫代の始末をして袖口の方に0.2cmのキセをかけ、袖下の方に0.3cmのキセをかけるのを理想として以下各図についての結果をみていきたいと思う。

2図の結果は、袖下の方の縫代のキセはかかるが袖口下の方のキセが、全々かからず丸みのところは0.2cm位かかっている。

3図の結果は、稍1図に近いキセのかかり具合である。

4図は、袖口下の方にキセがかからず丸みには0.4cmのキセがかかり、袖下縫代の方にも少しキセがかかっている。

5図は、丸みのところだけが0.4cmかかり、袖下及び袖口下には全々キセがかからない。

6図の結果は、ほぼ5図と同じである。

7図の結果は、1図に稍近いが袖口下のキセが少々かかりにくい。

8図の結果は、袖口下のキセが少々たりない。

9図の結果は、丸みには0.3cmのキセがかかるけれども袖口下のキセがかからない。

10図の結果は、丸みのところだけキセが0.6cm位かかり其他にはキセがかからない。

11図は、大体1図と同じ結果を得た。

12図は、丸みのところだけがキセが0.5cmかかり袖口及袖下の方にはかからない。

13図は、12図と同じ結果を得た。

14図は、袖下並び丸みには0.4cmのキセがかかるが袖口下にはかからない。

15図の結果は、丸みには0.4cm、袖下縫代の方に0.3cm、袖口下の方にはキセが全々かからない。

16図は、やゝよろしい結果を得た。

17図は、1図と稍同じ結果を得た。

18図は、17図と同じく1図に稍同じ結果を得た。

19図は、全体に0.4cmのキセがかかる。

20図は、引きしめる糸の長さを4cmにとどめると、1図に稍似た結果を得た。

21図は、丸みのところだけにキセが1cm位かかる。

22図は、丸みのところだけにキセが0.7cm位かかる。

23図は、丸みのところだけに0.9cmのキセがか

かる。

24図は、23図と同じである。

4. 結 論

以上の結果をみて和服の袖の丸みの始末の仕方は、2cmの丸みでは11図の結果が最もよく、袖口下の0.8cmの縫代の方には1.5cm、袖下の2cmの縫代の方には1.6cmだけ縫いちぎめる事によつて、同じく弧の中心より同寸法だけはなし更に第二直線も0.4cmはなしで実験したものよりも縫いちぎめる寸法が大いに影響するものである。即ち11図は最も1回に近くしかも時間も $\frac{1}{2}$ の時間で出来た。

3cmの丸みでは袖口下の方に1.6cm、袖下の方に1.7cm縫つてちぎめる。17図が最もよい結果を得た。

4cmの丸みでは20図の袖口の方へ2.4cm、袖下の方へ2.8cmの長さを4cmの長さに引きしめたものが最もよい結果を得た。

参 考 書

岩松マス先生著「和服裁縫全書」